学校番号	3003

令和２年度　工業科（工業デザイン系）

教科	工業	科目	デザイン史	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	デザイン史　（東京電機大学出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

デザイン史は、人間が歴史の中で《もの》をつくり出してきた営みを振り返ってみようとするものである。この造形の営みは、単に人間の生活だけでなく、それを取り巻く自然や社会の環境をも反映している。したがって、われわれは過去につくり出された《もの》の中から、その時代の生活や精神を読み取ることが大切となる。過去を通して現在の自分の位置を確かめ、時代や地域の座標の中で自己のあり方を再認識しましょう。

２　学習の到達目標

主に近代以降のデザイン運動から現代に至までのデザインの潮流や意義について、産業および文化との関連を通じて学習する。造形とデザインの歴史を理解させ、実際に創造し鑑賞する能力と態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	造形とデザインの歴史に関する諸課題について関心をもち、その改善･向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	造形とデザインの歴史に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	造形とデザインの歴史に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、に計画し、その技術を適切に活用している。	造形とデザインの歴史に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 ノート ワークシート　等	学習状況の観察 ワークシート 定期考査　等	学習状況の観察 ワークシート　等	学習状況の観察 ノート ワークシート 定期考査　等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	日本のデザイン	・古代の生活と造形 ・中世の生活と造形 ・近世の生活と造形 ・近代の生活とデザイン	○ ○ ○ ○	 ○	 ○ ○	 ○ ○	a: 各時代の造形文化の流れに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b: 造形運動が、海外の動きによって、どのような影響を受けてきたか判断し、問題解決に向けて自ら条件設定する能力が身に付いている。 c:各時代の造形文化について、基礎的・基本的な技術を身に付けるとともに、造形を合理的に計画することができている。 d: 各時代の造形文化に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、日本のデザインがどのように芽吹いたかを理解している。	学習状況の観察 ノート ワークシート 定期考査 等
後期	西洋のデザイン・現代のデザイン	・古代の生活と造形 ・中世の生活と造形 ・近世の生活と造形 ・近代のデザインの成立と発展 ・現代のデザイン	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	 ○	 ○	a:各時代の様式・造形運動に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b: 各時代の様式・造形運動について現代のデザインに与える影響を判断し、問題解決に向けて自ら条件設定する能力が身に付いている。 c:基礎的・基本的な技術を身に付けるとともに、自然に配慮し、造形を合理的に計画することができている。 d: 各時代の様式・造形運動に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代のデザイン動向を理解している。	学習状況の観察 ノート ワークシート 定期考査 等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。